

# 陸上運動部部便り

2009年4月号

## 六大戦

### 目次

1	六大戦	1
1.1	監督の言葉	1
1.2	主将の言葉	1
1.3	試合経過	2
1.4	試合結果	7
2	09年度部内五傑	10
3	自己記録更新者一覧 2008.11.19～2009.4.5	10
4	主務より	10
4.1	応援OB・OG紹介	10
4.2	行事予定	11
4.3	連絡先(慶弔等)	11

## 1 六大戦

### 1.1 監督の言葉

監督 寺田 秋夫

六大戦 良くも悪くも5位

平素は陸上部への多大なご支援ありがとうございます。日本の陸上シーズン開幕試合でもある、東京六大学対校陸上は、昨年に続き、国立競技場で開催されました。4月第1週は低温に悩まされることが多く、今日も日が陰った正午前後は各選手アップに苦労したようですが、昼過ぎからは気温も20度を越え、全体としてはまずまずのコンディションでした。今年のこの試合は立教の強化と明治の圧倒的な中長距離の力で、対校得点としては相当厳しくなると覚悟しておりましたが、110mH予選で酒谷(3年)が関東IC標準A突破の15"29(+1.3m)で決勝進出や、槍投の千葉(3年)の同じくB標準突破の52m55など+が欲しいところで結果が出せたこと、主将広瀬(TJ)・副将谷(JT)が本職では、土壇場で順位逆

転する気迫を見せたこと、5000mで宮野(2年)が終盤で大逆転の7位を奪取したことなど、良いシーンもありました。対校得点ではトラック9点・フィールド26点の35点で、フィールドの主力を欠き、本学と逆構造となった主幹校立教大学と同点となりました。本来なら同点5位のところが、主幹校のご好意で、個人種目の最上位(2位)の数の差で5位を頂きました。個々人で見るとよくやった選手もいるものの、100-1500mが0点に終わったことや、逆転できそうな内容での9位が多かったことが残念でしたが、小粒なチームが勝つための必須条件の、取れるポイントは確実に取りに行くという課題はクリアできておりました。この程度で満足してもいけませんし、選手を褒めてもいけないのはありますが、今日の時点では、チームとしてはシッカリやったというところです。そういう意味では良くやった試合ではありますが、冬場の課題が今日の時点ではクリアできていない選手がいたことや同点実質最下位の点は、それなりにやってその程度だという意味では残念なものもあります。ここには名前を載せていない多数の選手も良い意味でも悪い意味でも予想の範囲の内容でしたので、インカレを除く今後の対校戦では、今日のように小粒のチームがやるべきことをやりつつ、もう2,3人一皮剥けてくれれば、ドキドキしながらいい試合ができていけると思います。まずは、レベルの高いインカレでエースクラスがどう戦えるかが次の試金石です。今日は対校は男子のみでしたが、女子も過日、HTで楠木が関東IC標準を突破し、また、マイルリレーでも標準を切りました。優秀な持ち記録の入学生(入部となるかは今後の課題ですが)も多く、例年以上に1年を通じて成長していくことを実感しながら戦えることを、私自身も期待しています。今シーズンは京大、七大と主幹校で色々な面で真価が問われる1年です。変わらぬご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

## 1.2 主将の言葉

### 主将 廣瀬 彬

今シーズン初戦である六大戦が終わりました。対校戦の中でも最も強い大学との戦いということで毎年厳しい戦いになっています。今年も一番手となる選手の調子が上がらない種目があり、例年同様に苦戦を強いられることが予想されましたが、個々人が強い選手に物怖じせず食らいついていく、その上で関東インカレの標準記録を狙っていく、ということ課題として試合に臨みました。結果は35点で5位(6位立教と同点)と、1部校との実力差を痛感させられる結果に終わりました。しかし少しでも上を目指すべく攻めていくという姿勢がみられたことは、これから繋がっていくと思います。また110mHで酒谷(3年)が、槍投げで千葉(3年)がそれぞれ関東インカレのA標準、B標準を新たに突破し、同じく槍投げで谷(4年)が2位になるなど強豪に食らいついていく姿勢で結果を出せた者もありました。結果は真摯に受け止めなければなりません、上のようなことが見られた点、それぞれが課題を見つけられたという点では今後繋がっていくと確信しています。1ヶ月後に控えている関東インカレに一人でも多くの部員が出場、そして入賞できるように精一杯頑張っていきますので、今後ともご支援、ご指導のほどよろしくお願い致します。

## 1.3 試合経過

### トラック

#### 9:50 男子110mH 予選

1組3レーンに増本(3年)の出場。いきなり1台目、2台目のハードルを引っ掛けてしまいバランスを崩してしまう。その時点で他の選手とは大差を付けられてしまうが、追い風にも乗って何とか踏ん張り後半は挽回して5着でフィニッシュ。タイムは15"80であり公認ならば関東インカレB標準を突破していたのだが、このときの風が+3.3mであったのが悔やまれる。しかし地力は確実についてきているので、これからの記録会でB標準と言わずA標準15"50を狙ってってもらいたい。

2組7レーンに酒谷(3年)の出場。酒谷は課題のスタートがうまく決まって、3台

目までは他校の選手と一歩も譲らない互角の勝負を見せる。後半は走り込み不足もあってじりじり差を付けられてしまうも、そのまま15"29の4着でゴール。このときの風は+1.3mであった。酒谷はベストを0"41更新するという驚異の走りを見せ、関東インカレA標準も突破した。

この結果酒谷がプラスの2番目で決勝に進出した。

#### 10:20 男子400m 予選

1組2レーンに浅羽(3年)の出場。今季初レースということで気合いが入る。全国トップレベルの選手が揃う中、臆することなく勢いよいスタートを切った。第2カーブを抜けた辺りで少し差はついていものの、バックストレートは他の選手にあまり離されることなく快調に飛ばす。しかし、やはり後半は力の差が出たか、200mを過ぎた辺りから遅れを見せ始める。ホームストレートに入った時にはかなりの差がついてしまっており、最後は上半身はぶれることはないものの足が動かないという苦しい走りになる。結果浅羽は54"12の6着でゴール。続いて2組7レーンに片島(4年)の出場。大きな怪我もなく順調に冬期練習を積んでいたため、シーズン最初のレースでの好記録が期待されていた。号砲が鳴る。やはり相手は格上でバックストレートに入る時点で内側の選手に追い抜かれてしまうも、それは想定できた事態であり、焦ることなく落ち着いた走りバックストレートを駆ける。しかしスピードの違いは覆すことができずに徐々に差をつけられていき、そのまま盛り返すことなく片島は54"36の6着でのゴールとなった。調整不足であろうか、二人とも自己ベストからはほど遠いタイムでの予選落ちという結果に終わってしまった。今回のレースで浮かび上がった弱点克服に向けて、これからの練習を組み立てていく必要があるだろう。

#### 10:30 男子100m 予選

都井(4年)と春日(2年)の今季初戦。2人とも、冬季からジムに通い、小林寛道先生の開発したマシンを利用したトレーニングも行っていった。国立競技場で1部校のトッ

プレベルの選手と走れるこの大会で、その成果を発揮できるか。

1組の2レーンに都井の出場。まずまずのスタートを切るも、20-30m付近から、徐々に他校の選手と差を付けられてしまう。ここで食らいついていきたい所だが、10秒台の記録を持つ他校の選手との差はなかなか詰められない。5番手の選手についていくのが精一杯で、そのまま11"29の6着でゴール。風は-0.4mであった。

2組の2レーンに春日の出場。力強く、良いスタートダッシュを見せるものの、こちら序盤から他校の選手と差を付けられる。法大の小林や早大の木村といった選手を、臆することなく必死に追いかけるが、差は広がったまま。5番手の選手をなんとか追い抜こうとするが、僅差で順位を入れ替えることはできず、11"23の6着でフィニッシュ。風は-0.3mであった。

結果としては惨敗であったが、シーズン初戦であるということを考えると、向かい風の中まずまずの記録を残しており、内容としては決して悪くないものであった。春日は大学ベストであり、冬季練習の成果が早速出ているようだ。今後の調整次第で、翌月、再び国立競技場で走れるか否かが決まる。今回の走りをよく反省し、練習につなげていき調子を上げていけば、関東インカレ出場も見えてくる。今後の活躍に期待したい。

#### 11:50 男子 800m 決勝

渡邊(3年)、坂井(4年)の出場。右足首の怪我が気になる渡邊と、川口の体調不良により急遽出場することになった坂井。どちらも不安はあるが、積極的なレースを展開し、自己ベストの更新と得点することが期待されていた。

昨年と打って変わってのオープンレーンでのスタートに、インにいた渡邊は対応が取れずポケットされてしまう。一方、坂井はアウトレーンからうまく集団の中ほどに位置取りをすることができた。しかし、集団のペースが遅く、200mの通過は30"。渡邊は集団の中から抜け出せず、自分の走りができない。そのまま400mを58"で通過す

る。坂井はやや後ろに置いていかれる形で59"で通過する。二日目に入って集団は縦に伸び、坂井は後方にどんどん下がっていくが、渡邊はバックストレートで満を持してスパートをかける。そのまま8番手の位置までぐいぐいと追い上げ、得点なるかと思われたが、ホームストレートでの伸びがいま一つで、後ろの選手に食われて1'59"48の9位でゴール。坂井はホームストレートで驚異の追い上げを見せたものの及ばず、2'00"23の10位でゴール。

渡邊は自分のレースがさせてもらえず悔しい結果となった。昨年関東インカレにも出場し、実力は申し分のない選手なので、今後は柔軟にレースペースにも対応できるより勝負強い選手を目指してほしい。坂井は今回マイルリレーの練習を中心に行っていたため、800mのスタミナに不安があったからか消極的なレースとなってしまった。今後は持ち味のスピードを活かし、終盤まで好位置をキープした上でのラストスパートができれば勝利が見えてくるだろう。まずはこの後のマイルリレーでの2走の走りに期待したい。

#### 12:20 男子 3000mSC 決勝

野村(4年)、庄司(3年)の出場。山崎(4年)が怪我で出場を断念したため、補欠の野村が出場することになった。気温はやや高いものの、晴天でまずまずのコンディションであった。野村は今シーズンに入って3000mSCを始めたが、春季OPでは9分台で走っており、3000mSCで何回か対校選手を務めて経験のある庄司とともに、好レースが期待された。

周囲の選手のレベルが高いこともあり、2人とも後ろの方に付き、自分のペースで走ることに専念する。野村は3000mSCを走り始めて間もないながらも、無難にハードルを跳びこえることができた。ただ、入りの1000mに比べて後半はやや失速し、10'05"02の8位であった。庄司は最初の1000mは3'13とまずまずのペースで入り、ハードリングもスムーズであったが、後半は失速し10'14"09の9位であった。

7位の選手とのタイム差が20秒以上あ

り実力差を感じさせられるレースとなってしまった。しかし、両者ともにハードリング技術や走力において伸び代があると思われる。また、山崎や青木が復活すれば、切磋琢磨して競技力の向上が望めると思われる。今後の3000mSCに期待したい。

#### 12:45 男子4×100m 決勝

2レーンに中嶋(4年)-都井(4年)-春日(2年)-増本(3年)の走順で出場。前年に比べ10秒台スプリンターを2人欠き、4人の持ちタイムの単純総和ではかなりおとなしくなった感はあるが、これを埋めんと今年は早い段階からバトン練習に励んで来た。強豪揃いの中胸を借りるにはいい機会。もう人の後ろは走りたくない。午前中の100m対校及びオープンで中嶋、都井は自己ベストを記録、春日も大学ベストを更新するなど上り調子には違いなく、この勢いに乗って他大の尻尾を掴みたい。

号砲が鳴る。インコースから他校を追いかける1走中嶋は持ち前の抜群のダッシュで駆け上がり、猛追の構え。流石に抜き去る事はできないが、差を保ったまま大健闘の走りですべてのリレーゾーンにさしかかる。ここで、若干バトンにもたつきが見られたか、スタートを切った都井が一瞬減速。勿体ないミスで集団のやや後方から都井が中間疾走に入る。都井も動きがよく、特にバックストレート中央付近でノビがよい。しかし終盤は強豪集団にあってじりじりと離されてしまう。3走春日へのバトンは難なく繋がる。ここで、春日の動きがよい。内側からのコーナリング良く、心地よく最高速に乗る。第二曲走路出口で立大をあと一歩のところまで追いつめ、増本に託す。増本は朝一で行われた110mHでの無念を晴らさんと猛然とスパートするが、動きが硬くなり、思うように加速できない。中間疾走に入っても修正できず、集団からじりじりと離され、結局このまま43"54の6着でフィニッシュ。

前回の記録が43"41であったことを考えると、バトンワークと各人の粘りが穴を埋め、その限りで練習の成果は出たようである。やはり、各人の基本走力が課題。一刻

も早く大学生らしいレコードまで持っていきたい。

#### 13:15 男子110mH 決勝

1レーンに酒谷(3年)の出場。更なるベストの更新を目論んでスタートの1歩目を改良したものの失敗してつまづいてしまい、予選でも隣のレーンだった慶大の選手に早々に先行を許す苦しい展開となる。しかし持ち直した後は安定したハードリングを見せ、前との差は縮まらなかったものの15"35の8位でゴール。このときの風は-1.0mであった。ハイレベルのパフォーマンスを2本揃えることができたということは本人にとっても非常に大きく、関東インカレでも決勝進出、そして1点でも多く得点することが期待される。前主将のエース尾崎が引退し行く末が心配されたハードル陣であるが、冬場に丸丸となって日曜日のハードル練習等に取り組んできた成果が十分に表れた大会であったのではないかと考え、これからの対校戦では得点の荒稼ぎが期待できる。今回出場しなかったメンバーも含め、今後の東大ハードル陣から目が離せない。

#### 13:25 男子1500m 決勝

池田(2年)、山田竜(2年)の出場。力是他大学の選手にやや見劣りするが、好調である山田、復調しつつある池田、両名とも積極的に付いていくレースをし、少しでも上の順位を取ることを期待したい。

例年と違い、スタートと同時に一部の選手が大きく飛び出し、集団が縦長に形成される。池田・山田ともに集団のやや後方につけるが、300m通過後に先頭と離れてしまう。400mを61"程度で通過。先頭は58"前後。先頭のペースは落ちることなく800mを2'01で通過。山田、池田は二人で前を必死に追う展開となる。1000mを山田が2'45、池田が2'47で通過し、前とは離れているものの二人の実力からするといい展開である。残り200mが近付いたところで、山田がスパート。前にいる立教、法政の選手に迫るが、やはり距離が離れすぎていたか抜くことはできず、4'05 36の9位でゴール。池田は残り一周でペースが落ちて

しまい、4'16"20の12位でゴールした。

一点もとれない残念な結果に終わったが、山田はベストを3秒も更新し、池田も本来の走りを取り戻しつつあるので、今後の対抗戦に期待である。今回二人はまだ二年生である。一年間自分を磨きあげて、一年後の雪辱を期待したい。

**15:25 男子 5000m 決勝**

竹俣(3年)、宮野(2年)の出場。他大の選手との実力差が大きく苦戦が予想されるが、両者とも大きな故障も無く冬季練習を積み、確実に実力をつけており、何とか食らいついてほしいところ。特に竹俣には、関東インカレのB標準切りが期待された。晴天の好コンディションの中、レースはスタート。最初の1000mを竹俣は2'51、宮野は2'49のハイペースで通過するが、先頭集団にはついていけず、竹俣は第二集団の先頭に、宮野は後方に位置取るも、次第に集団がばらけ、両者とも一人旅になってしまう。竹俣は1km当たり3分弱のペースを維持し、第一集団からこぼれた選手との差をじわりじわりと縮めたが逃げ切れ、14'45"00の6位でゴール、自己ベストを0.2秒更新した。一方宮野は序盤のオーバーペースに苦しみながらも何とか粘り、ラスト800mに慶應の選手を2人、ラスト200mで立教の選手を1人抜き去り、15'15"92の7位でゴールした。

終わってみれば2人で5点を獲得する予想以上の活躍であった。竹俣は自己ベストを更新できたものの、惜しくも標準切りはならず、本人には不満の残る結果。宮野は2年生ながらもエース竹俣に次ぐ戦力となっており、大学ベストの15'13"52、更には自己ベストの15'00"42の更新が期待される。今回は両者にとって他大の強豪選手と対決できる滅多に無い機会となった。両者の今後の成長に目が離せない。

**16:05 男子 4 × 400mR 決勝**

7レーンに増本(3年)-坂井(4年)-浅羽(3年)-赤木(3年)の順で出場。この種目は他の五大学との力の差が大きく、厳しい戦いが予想されたが、どこまで食い下がるかが期待された。1走増本は前半は他大学に

劣らない好調な滑りだし。中盤でかわされるものの50"93のラップで2走坂井に繋ぐ。2走酒井は中距離選手らしい走りの後半うまく追い上げ、50"76の好ラップで5位の明大と僅差で3走浅羽へ繋ぐ。しかし、ここからは他大学との差を見せつけられ3走浅羽53"36、4走赤木52"31のラップでだんだんと後退し、結果3'27"36の6着でフィニッシュ。今回は短長全体として調子が悪く、他パートの力を借りての出場となってしまったので、次回の復活を期待したい。

**フィールド**

**10:00 男子三段跳 決勝**

廣瀬(4年)、定金(3年)の出場。予報に反して天候に恵まれ、4月頭とは思えぬ陽気と心地よい追い風の吹く中、競技は行われた。

廣瀬はなかなか助走のスピードが上がって来ないが、この冬さらに磨きかけた技術で13m後半の跳躍を連発。順当にトップエイトに残る。しかし、続く2本は風にも恵まれず記録が伸びない。部員一同願いをかけた6跳目の最終跳躍、1.2mの追い風の中、廣瀬が見せたのは滞空時間の長い大ジャンプ。記録はなんと14m26の自己ベスト。並み居る強豪のなか4位という結果を残す。

定金は足の状態に不安を残しながらも強行出場。1跳目で早くも違和感を覚えるが、2跳目でなんとか13m23の跳躍。しかしその後は走ることさえままならずあえなくの棄権。結果8位に終わるが、求められた仕事はこなしたと言えよう。以上により本学の得点は5点であった。今後廣瀬には一層のスピードトレーニングとウェイトを、定金には療養と再度の調整を望みたい。本学の主力種目と言ってもいいこの三段跳で今後の対校戦でも高得点を獲得することを期待する。

**10:00 男子砲丸投 決勝**

寺島(4年)、原(3年)の出場。4月上旬にしては暖かく、投擲向きの気候の中での試合となった。各校から競合選手が参戦するこの試合だが、2人はこの厳しい状況の中

で上位8人に食い込み、1点でも多くを獲得することが期待された。寺島はハンマーを専門とする選手だが、専門選手に欠ける砲丸投のために今回初めてグライドに挑戦した。一方混成選手の原は他種目の対校選手も兼ねており、しっかり切り替えることが求められた。

寺島は1投目からグライドを使い、9m台にのせた。慣れないグライドに苦戦するも、前半3投で7番になり後半3投に臨んだ。4投目では9m27と記録を伸ばし、結局9m27の7位であった。原は同時刻に開始された棒高跳との兼合があり、2投で切り上げねばならなかったが、1投目に残した8m50で最終的に8位となった。

結果的に2人とも得点し、役割を果たすことができたが、個々人に課題は残った。寺島はグライドを使いこなすこと、原は少ない投擲数でベストにもっていくことが今後求められる。2人は自分の専門種目もあるが砲丸投の練習も頑張ってもらいたい。

### 12:30 男子走幅跳 決勝

廣瀬(4年)、西田(3年)の出場。午前引き続き心地よい天候に恵まれる。応援合戦が長引くというアクシデントはあったが、両選手ともに丁寧に足合わせを行い調整を怠らない。

しかし廣瀬は午前の三段跳の疲れもあってか、いつもの速い動きが出来ない。なんとかトップエイトには残るが、6m44までしか記録を伸ばせず。そのまま8位で終わる。

西田は助走でスピードに乗るが、上手く足を合わせることができない。3跳目で記録を残しに行き6m33を跳ぶが、惜しくも9位でトップエイト入りを逃す。

以上により本校の得点は1点に終わる。昨年まで本校を引っ張ったエースたちが抜けたこの種目、やはり戦力の低下は否めないようだ。両選手ともに三段跳での活躍も期待される選手ではあるが、対校戦においての本種目の重要性を再認識し今後も一層の練習に励むことを期待する。

### 12:30 男子やり投 決勝

谷(4年)、千葉(3年)の出場。気温が20

度前後まで上がり、いいコンディションの中での競技となった。エースの谷は調子を上げておりこの試合では自己ベストを目指していた。千葉は2週連続でじわじわとベストを更新するも関カレB標準に数10cm及ばず、この日は絶対に突破したいところであった。

上位をねらう谷は助走が合わず1、2投目とファールを連発。出場者が9人であったため、トップエイトに残るために3投目は不本意な投擲ながら記録を残し8番手で決勝へ。4投目以降は思い切った投げで60m前後の投擲をみせ、5投目の62m41で2位となり、自己ベストには及ばなかったがエースとしての役割は果たした。千葉は練習投擲から調子がよく、1投目は失敗投擲となったが2投目に標準記録の50mを突破。そのおかげかその後はリラックスした投擲をみせ、結果は5投目の52m55で8位であった。この種目東大は8点を獲得。関カレ、七大戦などでも得点が期待される種目であり、両人には今回の反省を活かしもう一回り大きくなってもらいたいところである。

### 12:30 男子棒高跳 決勝

坂本(3年)、土居(2年)は共に故障していたため、原(3年)のみの出場となった。原は3m00からの跳躍。砲丸投にも同時に出場していたため、十分に走れておらず、跳躍の形は崩れたが、グリップに余裕があったので1跳でクリア。3m20でも、跳躍の形は悪いが、グリップを少し上げて、その余裕でこれもクリア。続く3m40では、1跳目は落としたものの、2跳目では助走の硬さがとれてスピードが上がり、グリップも上がって、クリア。3m60では、グリップは足りているものの、抜きの高さが足りず、惜しくも3跳失敗し、6位で試技を終えた。

今後は、助走距離を延ばしつつ、本格的なポール曲げとそれに合わせた振り上げを習得することが課題である。

### 14:00 男子走高跳 決勝

荒井(4年)、坂本(3年)の出場。出場選手が少なかったため、記録をのこせば得点できる状況。風は弱く良いコンディション

であった。

けがをおして出場した坂本は1 m 60 を1回で成功させて、そこで競技を終了した。坂本にとって初の対校試合がこのような形であったことは残念だが、今年度は対校選手として出場することになると思われるので、早くけがを治して自己ベストに挑戦してほしい。

荒井も1 m 60 から競技を開始したが、1跳目は尻でバーを落としてしまう。そこで焦ってしまったか2跳目、3跳目と助走が合わず失敗し、まさかの記録なしにおわってしまった。荒井には猛省を促したい。

結果、坂本が6位で3点を獲得した。両選手が実力を出し切れていれば更に得点できただけに残念な結果であった。

#### 14:00 男子円盤投 決勝

谷(4年)、原(3年)の出場。天気はよく、ここ最近の中ではかなり暖かかった。また風もあまり吹いておらず、コンディションはよかった。明治は不出場なので、立教の二人に勝てば点が取れるという状況であり、二人とも立教には勝ってあわよくば他大学の強豪に勝つことも期待された。

谷はやりに集中しており、また久しぶりの円盤ということもあって投げが定まらず1投目、2投目とファールをしてしまう。3投目は立教の25mを越えればよかったのでやや慎重には投げたのだが、円盤は右に逸れてしまい、残念ながら3投全てファールでエイト漏れになってしまった。一方、原は3投目までは無難に投げ、立教の二人を抑えトップエイトに残った。トップエイトの試技では徐々に記録を伸ばしていき、6投目ではまずまずの投擲で27m44と、立教の1番手には勝ち、7位で試技を終了した。

谷はベストコンディションならば6位の選手にも勝てる力はあったので悔しい結果となった。シーズン後半には調子を上げることを期待したい。原も少しずつではあるが記録を伸ばしてきているので次は自己ベストを更新してほしい。

## 1.4 試合結果

### 第42回東京六大学対校陸上競技大会

於 霞ヶ丘国立陸上競技場 (H21.4.5)

#### 男子 100m 決勝 (+3.0)

1	江里口匡史	早大	10.32
2	小林雄一	法大	10.33
3	木村慎太郎	早大	10.44
4	九嶋大樹	慶大	10.67
5	吉田洸平	明大	10.68
6	石川順	明大	10.68(着差あり)
6	吉野寿	法大	10.68(着差なし)
8	熊本貴史	慶大	14.87

#### 男子 100m 予選

1組 (-0.2)			
6	都井紘	東大	11.29
2組 (-0.3)			
6	春日慶輝	東大	11.23

#### 男子 400m 決勝

1	廣瀬英行	慶大	47.16
2	中村達郎	早大	47.99
3	木村篤	慶大	48.49
4	濱野純平	早大	48.52
5	勝俣章博	法大	48.62
6	田村純一	立大	48.96
7	岩国英昭	立大	49.43
8	梶田俊樹	立大	50.03

#### 男子 400m 予選

1組			
6	浅羽太郎	東大	54.12
2組			
6	片島拓弥	東大	54.36

#### 男子 800m 決勝

1	佐藤悠	早大	1.53.82
2	石丸信吾	明大	1.53.95
3	栗津良介	明大	1.54.62
4	石田洸	早大	1.54.83
5	成田光佑	慶大	1.57.94
6	横山泰裕	立大	1.58.43

7	横田将大	慶大	1.58.74
8	嘉瀬貴祥	立大	1.58.98
9	渡邊拓也	東大	1.59.48
10	酒井啓一	東大	2.00.23
11	神山祐太	法大	2.00.51
12	菊池涼平	法大	2.02.30

## 男子 1500m 決勝

1	八木勇樹	早大	3.48.05
2	山崎亮平	明大	3.48.20
3	岡崎達郎	早大	3.48.83
4	細川雅史	明大	3.57.92
5	賀上弘基	法大	4.01.27
6	樋口諒	慶大	4.02.37
7	太田裕之	立大	4.04.85
8	浅野目洋輔	法大	4.04.92
9	山田竜也	東大	4.05.36
10	榊原奨太	立大	4.08.86
11	大森理範	慶大	4.13.69
12	池田剛志	東大	4.16.20

## 男子 5000m 決勝

1	北條尚	明大	14.24.57
2	菊池賢人	早大	14.25.80
3	近藤洋平	早大	14.27.35
4	加藤創大	立大	14.40.06
5	益田賢太郎	法大	14.42.12
6	竹俣直道	東大	14.45.00
7	宮野健司	東大	15.15.92
8	加藤真一	立大	15.19.74
9	平塚知成	慶大	15.21.60
10	齋藤大樹	慶大	15.24.92
11	小谷野尚光	立大	15.42.76
—	矢澤曜	早大	DNS

## 男子 110mH 決勝 (-1.0)

1	飯田将之	早大	14.02(NGR)
2	日野勇輝	早大	14.04(NGR)
3	原将人	慶大	14.38
4	竹中航	法大	14.53
5	大蔵崇史	法大	14.60
6	馬場健太	慶大	15.63
7	井上雄貴	立大	15.24
8	酒谷彰一	東大	15.35

## 男子 110mH 予選

1組 (+3.3)			
5	増本健太郎	東大	15.80
2組 (+1.3)			
4	酒谷彰一	東大	15.29

## 男子 3000mSC 決勝

1	福島成博	法大	9.03.39
2	末山貴文	法大	9.06.50
3	小谷野尚光	立大	9.24.43
4	菅田壮志	明大	9.25.58
5	太田裕之	立大	9.29.42
6	北爪貴志	明大	9.29.56
7	星新一	明大	9.39.23
8	野村圭吾	東大	10.05.02
9	庄司健太	東大	10.14.09
10	櫛田貴茂	慶大	10.21.62
11	西郷泰広	慶大	10.38.74
—	萩原涼	早大	DNS

## 男子 4 × 100mR 決勝

1	早大	40.10
2	法大	40.72
3	慶大	41.21
4	明大	41.57
5	立大	41.94
6	東大	43.54

(中嶋-都井-春日-増本)

## 男子 4 × 400mR 決勝

1	法大	3.10.19
2	早大	3.12.84
3	慶大	3.15.02
4	立大	3.16.08
5	明大	3.20.21
6	東大	3.27.56

(増本-坂井-浅羽-赤木)

## 男子走高跳決勝

1	宇都宮健祐	慶大	2m00
2	小栗良太	慶大	1m95
3	堀航大	早大	1m90

4	土井翔太	法大	1m70
5	安部俊二	法大	1m70
6	坂本智	東大	1m60
-	荒井博貴	東大	NM
-	松本裕樹	法大	NM
-	岩国英昭	立大	DNS

男子棒高跳決勝

1	笹瀬弘樹	早大	5m10
2	安藤大地	早大	4m80
3	丹治瑞生	法大	4m70
4	加藤庸輔	法大	4m70
5	浮氣統一	慶大	3m80
6	原湖楠	東大	3m40
-	鈴木禎教	立大	DNS
-	岩国英昭	立大	DNS
-	土居富裕	東大	DNS

男子走幅跳決勝

1	戸谷隼人	法大	7m41(+1.9)
2	早野雅人	早大	7m18(+0.9)
3	辻岡夏彦	早大	7m00(+1.2)
4	井上了輔	法大	6m98(+1.6)
5	長尾勇佑	慶大	6m97(+0.6)
6	宮岸暖	慶大	6m92(+2.5)
7	藤原啓史朗	立大	6m92(+2.8)
8	廣瀬彬	東大	6m44(+0.3)
9	西田昂広	東大	6m33(+1.5)
10	井上雄貴	立大	6m30(-0.6)

男子三段跳決勝

1	渡辺真也	法大	14m82(+1.5)
2	辻岡夏彦	早大	14m53(-0.8)
3	廣中誠音	慶大	14m36(+3.6)
4	廣瀬彬	東大	14m26(+1.2)
5	平沢晋太郎	法大	14m18(+2.3)
6	大高健太郎	早大	14m11(+3.3)
7	石川航平	慶大	13m92(+1.2)
8	定金駿介	東大	13m23(+1.0)
-	藤原啓史朗	立大	DNS
-	井上雄貴	立大	DNS

男子砲丸投決勝

1	窪田章人	早大	13m92
---	------	----	-------

2	飯室延郎	法大	13m84
3	秋本壯樹	慶大	13m70
4	古市裕磨	法大	13m67
5	桐本篤	慶大	12m69
6	有間佳一郎	早大	12m50
7	寺島孝明	東大	9m27
8	原湖楠	東大	8m50
-	岩国英昭	立大	DNS
-	三宅大輔	立大	DNS

男子円盤投決勝

1	桐本篤	慶大	36m67
2	有間佳一郎	早大	36m57
3	秋本壯樹	慶大	36m32
4	古市裕磨	法大	36m13
5	堀航大	早大	34m21
6	飯室延郎	法大	31m82
7	原湖楠	東大	27m44
8	三宅大輔	立大	25m30
-	谷彰一郎	東大	NM
-	岩国英昭	立大	DNS

男子やり投決勝

1	神崎真悟	早大	66m98
2	谷彰一郎	東大	62m41
3	田中司	早大	61m60
4	西森大展	慶大	57m35
5	久世満生	慶大	56m96
6	三宅大輔	立大	55m15
7	古市裕磨	法大	54m79
8	千葉伸宏	東大	52m55
9	岩国英昭	立大	DNS
10	飯室延郎	法大	DNS

男子トラック順位

1	早大	90
2	法大	66.5
3	明大	59.5
4	慶大	46
5	立大	29
6	東大	9

男子フィールド順位

1	早大	85
---	----	----

2	慶大	67
3	法大	62
4	東大	26
5	立大	6
6	明大	0

男子総合順位		
1	早大	175
2	法大	128.5
3	慶大	113
4	明大	59.5
5	東大	35
6	立大	35

## 2 09年度部内五傑

本戦が今年度の初戦でした故、部内五傑はお休みさせていただきます。ご了承下さい。

なお、08年度部内五傑の決定版は会報(復刊第五十六号)にて掲載致しますのでご参照下さい。

## 3 自己記録更新者一覧

2008.11.19 ~ 2009.4.5

### 11/16 上尾シティマラソン(上尾市)

ハーフマラソン 丸山哲史(1年) 1°24'21"

### 12/12-13 日体大長距離記録会(日体大)

5000m	石丸翔也(1年)	16'33"03
5000m	丸山哲史(1年)	17'30"
5000m	渡邊拓也(2年)	15'41"39
5000m	木内久雄(2年)	16'17"66
5000m	斎藤瞬也(2年)	16'53"83
5000m	石川恭平(3年)	16'15"63
10000m	渡邊拓也(2年)	33'35"04

### 1/1 元旦競歩(神宮外苑)

20kmW 早川晃司(2年) 1°46'11"

### 2/1 神奈川マラソン(横浜市内)

ハーフマラソン	山田竜也(1年)	1°10'17"
ハーフマラソン	渡邊拓也(2年)	1°14'52"

### 3/8 立川マラソン(昭和記念公園)

ハーフマラソン	鳶田洸一(2年)	1°12'45"
ハーフマラソン	庄司健太(2年)	1°15'04"
ハーフマラソン	井出昌宏(3年)	1°16'20"

### 3/20-21 東大競技会(駒場)

100m	浅沼達也(3年)	6m02(+0.0)
100m	日下桃子(3年)	13"88(-1.5)
100m	持永新(M1)	11"51(+1.7)
200m	春日慶輝(1年)	22"98(±0.0)
400m	増本健太郎(2年)	51'94
1500m	酒谷彰一(2年)	4'32"89
5000mW	井上雄介(2年)	28'07"21
10000mW	井上雄介(2年)	51'44"51
走幅跳	定金駿介(2年)	5m90(+2.0)
円盤投	原湖楠(2年)	27m86
十種競技	原湖楠(2年)	4743pts

### 3/21 順天堂記録会(順大)

ハンマー投 楠木千尋(3年) 27m08

### 3/26-27 春季オープン(夢の島)

100m	西田昂広(2年)	11"65(-1.4)
400m	定金駿介(2年)	52"55
1500m	斎藤瞬也(2年)	4'25"07
3000mSC	野村圭吾(3年)	9'57"44
10000mW	早川晃司(2年)	49'46"82

### 4/5 六大戦(国立)

100m	春日慶輝(2年)	11"23(-0.3)
100m	都井紘(4年)	11"29(-0.4)
100m	中嶋毅彰(4年)	11"51(+2.0)
100m	楠木千尋(4年)	14"11(+0.3)
110mH	酒谷彰一(3年)	15"29(+1.3)
1500m	山田竜也(2年)	4'05"36
5000m	竹俣直道(3年)	14'45"00
5000m	鈴木俊輔(2年)	16'59"92
三段跳	廣瀬彬(4年)	14m26(+1.2)
やり投	千葉伸宏(3年)	52m55

いずれの試合も学年は試合期日当時のもの。

## 4 主務より

### 4.1 応援OB・OG紹介

4/5(日)に、国立競技場にて行われました六大戦に際し、応援に駆けつけて下さったOB、OGの方のご氏名をご卒業年順に報告いたします。(敬称略)

1963卒	梅津祐良
1979卒	中谷敬二
1983卒	八田秀雄
2005卒	藤田靖浩

2008 卒 倉員智瑛  
 2008 卒 小澤聡  
 2008 卒 山本祥  
 2009 卒 梶井駿介  
 2009 卒 田中裕一郎  
 2009 卒 松永将幸

ご多忙の中、お越し下さいましたことに心よりお礼申し上げます。

#### 4.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

- 関東 IC  
 5/16(土)・17(日)・23(土)・24(日) 国立競技場
- 国公立戦  
 5/31(土) 会場未定
- OB 戦  
 6/20(土) 駒場グラウンド
- 四大戦  
 (仮)7/12(日) 会場未定
- 七大戦  
 7/25(土) 大井埠頭陸上競技場・26(日) 国立競技場
- 一橋戦  
 9/12(土) 町田市立陸上競技場
- 京大戦  
 10/3(土) 駒場グラウンド

#### 4.3 連絡先 (慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長:田上静之

TEL : 03-3835-6792

(凸版印刷株式会社経営監査室)

E-mail : seishi.tanoue@toppan.co.jp

学生主務:坂井啓一

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-17-14 ファー  
 バング 203

TEL : 090-5561-4320

E-mail: shumu@uttff.org

\* この部便りは下記 web ページでもご覧になれます \*

<http://www.uttff.org/>

\* 部便り郵送不要の方はお手数ですが学生主務までご連絡下さい \*

主務 坂井啓一

文責 : 柴田渥史